

## 家庭でできる取組例

家庭でできる取組例を以下の表に示します。これらの取組は温室効果ガス排出量の削減だけでなく、家計の無駄を削減することにも有効です。

分野	省エネ行動	CO2削減量	年間節約額	条件
照明	電球形LEDランプに切り替える	39.9kg	2,883円	白熱電球54Wから電球形LEDランプ7.5Wに交換
	点灯時間を短くする	1.2kg	85円	電球形LEDランプ7.5W1灯の点灯時間を1日1時間短縮
テレビ	テレビを見ないときは消す	12.4kg	895円	1日1時間テレビ(50V型)を消す
	テレビの画面は明るすぎないように	8.04kg	581円	テレビ(50V型)の画面輝度を1割下げる
エアコン・空調	夏の冷房時には室温の目安を28℃に	14.8kg	940円	外気温度31℃の時、冷房設定温度を27℃から1℃上げる
	石油ファンヒーターの設定温度を20℃に	25.4kg	880円	外気温度6℃の時、暖房の設定温度を21℃から1℃下げる
	月に1回エアコンのフィルターを掃除	15.6kg	990円	目詰りしたフィルターを清掃
冷蔵庫	冷蔵庫に食品を詰め込みすぎない	21.4kg	1,360円	詰め込んだ食材を半分に
	壁から適切な間隔で設置する	22.0kg	1,400円	上と両側が壁に接している場合を片側だけ壁に
ガス給湯器(風呂)	お風呂には間隔を開けずに入る	85.7kg	6,190円	4.5℃低下(2時間放置)した湯(200L)を追い焚き
	シャワーを流しっぱなしにしない	28.7kg	3,210円	45℃の湯を流す時間を1分間短縮(節水効果を含む)
洗濯	洗濯物はまとめ洗いする	2.9kg	4,510円	定容量の4割を入れて1回洗う場合を8割に(節水効果を含む)
	乾燥機と自然乾燥を併用する	192.6kg	12,230円	乾燥機のみ乾燥を自然乾燥8時間後に補助乾燥する場合には
調理	コンロの炎は鍋底からはみ出さないように	5.3kg	390円	水1L(20℃程度)を沸騰させる時、強火から中火に

出典：経済産業省資源エネルギー庁 家庭向け省エネ関連情報「無理のない省エネ節約」

お問い合わせ先

五所川原市 民生部 環境対策課  
〒037-8686 青森県五所川原市字布屋町41番地1  
TEL 0173-35-2111

## 五所川原市地球温暖化対策実行計画

### (区域施策編) 概要版



2026年度～2050年度



### 計画の趣旨

地球温暖化対策として、国際的・国内的な目標が設定され、脱炭素社会への転換が進む中、日本では2050年カーボンニュートラル宣言と2030年や2040年の温室効果ガス削減目標が示されています。青森県でも同様に、再生可能エネルギーの導入拡大や地域と自然環境の

調和を重視した条例、GX事業など、持続可能な社会を目指す諸施策が推進されています。

こうした状況を踏まえ、本計画は、五所川原市における温室効果ガス排出量の削減目標を定め、市民・事業者・市が一体となって地球温暖化対策に取り組むことを目的としています。

## 温室効果ガス排出量の削減目標と再生可能エネルギーの導入目標

本計画は、基準年度を2013年度、計画期間を2026年度から2050年度（目標年度）までとし、地球温暖化をめぐる国内外の社会情勢等を踏まえ、適切な時期に計画の見直しを行うこととします。

温室効果ガス排出量の削減目標として、2030年度までに2013年度比で50%削減、2040年度までに同年度比73%削減、2050年度までにカーボンニュートラルの達成を目指すこととします。また、その目標の達成に向けて再生可能エネルギー導入目標として、2050年度までに五所川原市内の再生エネの総発電量が市内の総電力使用量を上回る（電力のネットゼロカーボンの達成）を目指します。

### 温室効果ガス排出量の削減目標

2030年度：2013年度比で50%削減  
 2040年度：2013年度比で73%削減  
 2050年度：カーボンニュートラルの達成

### 再生可能エネルギーの導入目標

2050年度までに電力のネットゼロカーボンを達成  
**市内の再生可能エネルギーの総発電量 ≥ 市内の総電力使用量**

## 推進体制

市全体で再生可能エネルギーの導入や脱炭素施策を進めるために、関係部署が連携し、庁議や専門協議会を活用して計画を策定・検討する体制を構築します。また、市民や事業者も計画づくりに参加し、多様な意見を反映させます。

本計画ではPDCAサイクルに基づいて進捗管理を行い、温室効果ガス排出量及び再生可能エネルギーの導入量（市内の総電力使用量に対する再生エネの総発電量の比率）を評価指標とします。



## 施策一覧

市民、事業者、市が一体となって以下の6つのプロジェクトを進めていきます。

### (1) 一般世帯×再生エネ×健康プロジェクト



省エネルギーや再生可能エネルギーの導入を進めることで、寒冷地特有のエネルギー消費を抑え、健康や防災、家計負担の軽減等の市民の利益につなげる取組を推進します。

#### 推進内容

- ・自家消費型の太陽光発電の導入
- ・既存住宅の断熱改修
- ・高効率給湯器の導入
- ・薪ストーブの導入

### (2) 1次産業×GHG排出削減プロジェクト



温室効果ガス削減や、J-クレジット制度などで1次産業の所得向上を目指します。

#### 推進内容

- ・水田の中干期間の延長（J-クレジット制度の利用）
- ・バイオ炭の農地施用（同上）

### (3) 地域拠点施設整備×脱炭素プロジェクト



温室効果ガス排出量の多い施設で地中熱ヒートポンプや高効率空調などの設備導入・更新を推進します。

#### 推進内容

- ・省エネ診断の実施
- ・地中熱ヒートポンプの導入
- ・高効率空調設備の導入
- ・自家消費型の太陽光発電の導入

### (4) 公共施設×再生エネ×防災プロジェクト



公共施設へ再生可能エネルギー発電設備や蓄電池を導入し、災害時のレジリエンス向上を推進します。

#### 推進内容

- ・災害(暑熱)時避難所施設等への自家消費型の太陽光発電及び蓄電池の導入並びに断熱化

### (5) 交通×脱炭素プロジェクト



次世代自動車への切り替えや公共交通利用、エコドライブを推進します。

#### 推進内容

- ・EV化及び充放電設備の導入
- ・公共交通及び自転車利用の推進
- ・エコドライブの推進

### (6) 再生エネ×地域共生プロジェクト



地域と共生の図られた再生可能エネルギー発電事業を推進します。

#### 推進内容

- ・地域と共生の図られた再生可能エネルギー発電設備の導入
- ・発電収益を活用した地域課題の解決
- ・電力の地産地消推進